

日本福祉大学生生活協同組合 第6期中期計画（2015年～2019年）

日本福祉大学生生活協同組合

「生活協同組合第6期中期計画（2015年～2019年） ～学生支援・福利厚生充実のためのトータルプラン～ を策定します。

生協では現在、第5期中期計画（2011～2014）に沿って、福利厚生事業・勉学教育研究支援事業に取り組むとともに、経営改善をすすめてきました。

東海キャンパスの開設する2015年は生協にとっても大きな節目となります。累積欠損解消と2015年以降の安定的な経営に目処がつけば、より積極的に「構成員の福利厚生及び学生支援の充実」に貢献することができます。

また、大学のキャンパス環境整備事業の第2期環境整備事業でも「学生生活上の条件整備」が重点として挙げられています。生協も、「生協第6期中期計画～学生支援・福利厚生充実のためのトータルプラン～」を作成し、新たな日本福祉大学の挑戦に、組合員の福利厚生と学生支援を担う協同組合の立場から参画します。

「ふくしの総合大学」の発展に寄与し、「福祉大に生協があってよかった」と言ってもらえる生協づくりをすすめます。

1 第6期中期計画の位置づけ

- (1) 「経営再建（累積欠損解消）」のための計画から「組合員・大学への新たな貢献」のための計画へ¹
- (2) 生活協同組合の理念と原則に立ち返り、組合員の参加と協同を広げることを大切にしたい計画
- (3) 大学と連携・協力して福利厚生と学生支援事業を担い、大学構成員の期待に応える計画
- (4) 3キャンパスで安定的かつ持続的な経営・組織運営を実現（経営の自立）するための事業計画²
- (5) 第6期中期計画の期間は、2015年度総代会から2019年度総代会までの4年（2015.6～2019.5）とします。東海キャンパス開設年次である2015年度の経営・組織状況を踏まえ、2016年5月に

¹ 第5期は累積欠損の解消を目的とした経営再建計画を執行してきました。第6期中期計画は、組合員の大学生生活・勉学生活の充実と新たな日本福祉大学の挑戦に対する、生協の新たな貢献への決意を表明し、具体化するための計画とします。

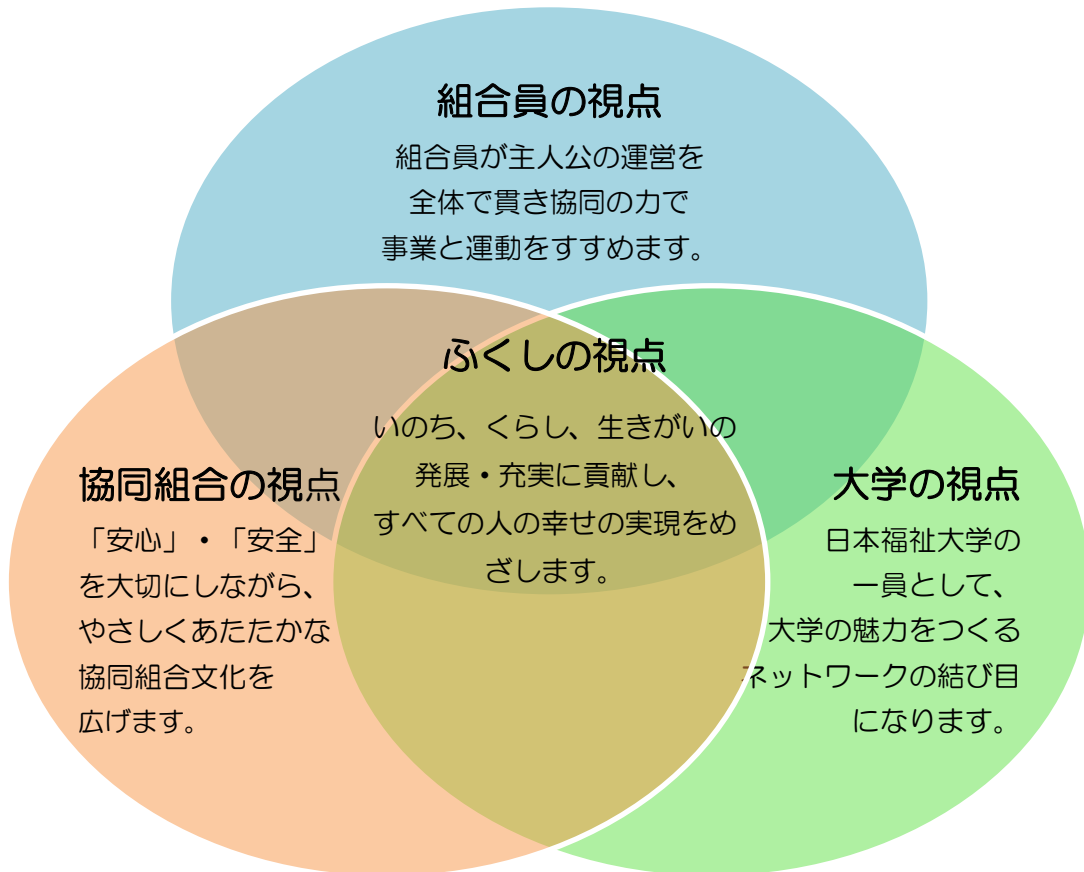
² 2015年を持って、事業連帯による経営再建支援は終了を迎えます。累積欠損は残っていますが、3キャンパス運営により経営環境は厳しくなります。その中で自立した経営を続けていくための事業計画を立案します。また、学生委員会を初めとした組織活動のあり方や組合員参加の広げ方についても計画を作成します。

ローリングプラン³を作成します。

2 大切にしている4つの視点

～『日本福祉大学に生協があってよかった!』と言ってもらえる生協をめざして～

組合員と一緒に作る気持ち、大学と協力しながら活動や事業をつくる気持ちをいま以上に強く持ち、実践をすすめます。



3 生協の5つの使命（組合員との約束）

5つの約束は、日本福祉大学大学生協の存在意義を表すものです。「何のために存在する組織か」を自ら定義します。

- 1 安心と安全を大切に、よりよい品質の商品・メニューを追求します。
- 2 組合員のくらしの声を聴き、くらしに寄り添い、価値ある商品・サービスを創造します。
- 3 組合員の想いをつなぎ、キャンパスに協同の輪を広げます。
- 4 キャンパスに笑顔と健康、心豊かなくらしを届けます。
- 5 魅力ある大学づくりと地域社会に貢献します。

³ 毎年の経営環境を考慮して見直す経営修正計画のこと

4 生協の7つのビジョン（中期目標）

7つのビジョン（中期目標）は、生協が組合員にとって、福祉大にとって「頼りになる存在」「なくてはならない存在」であり続けるために、2019年までに「何を実現したいか」「どのように学生を支援できるか」「どのような貢献ができる生協でありたいか」「どのような経営状態でありたいのか」を目標として表したものです。ビジョンと現在の活動内容・レベルを対比しながらふりかえる原点となります。

①【ふだんの暮らしへの役立ち】

全ての大学構成員の「福利厚生」「学生支援」の充実をテーマに、学園生活により広く深く根ざした事業・活動を展開します。

②【勉学教育研究生活への役立ち】

日本福祉大学の知の拠点である各キャンパスで『アゴラ（知の広場）』⁴の役割を担います。

③【食生活への役立ち】

「欠食・偏食・孤食を解消し、豊かで安全な食生活を提供すること」をめざし、フードサービス事業の改革をすすめます。

④【組合員どうしの支え合い】

組合員どうしが支え合い、学び合い、高め合える場をプロデュースします。

⑤【地域社会づくりへの参加】

地域社会の中で、行政やさまざまな団体と協同しながら、組合員が暮らしと地域に関わる主体的な力を高める取り組みをすすめます。

⑥【健全な経営づくり】

事業経営力を向上させ、力強く健全な事業経営力を確立します。

⑦【元気な生協組織づくり】

組合員が元気に参加し、職員が元気に働き、学び合い成長する生協組織をつくります。

⁴ アゴラとは「人の集まる場所」を意味し、古代ギリシアでは市場や集会所がある公共広場を指します。アテネ市民にとってアゴラは生活の場であり、政治や経済、文化の拠点として機能し、市民はここで様々な情報交換を行いました。生協の購買・書籍部が福祉大学の「知」が集まる場所であり、食堂が「知」の交流の場となるように学びの提案をすすめていく思いをこめました。

4 アクションプラン（2015.6～2019.5）⁵

アクションプランは、ビジョンの実現のために4年間で「具体的にどのような行動が必要か」「何を優先的に取り組むべきか」を言葉に置き換えたものです。生協の役職員、学生委員会の活動を考えるうえでの指針ともなります。

（1）組合員参加と基礎組織の強化に関する計画

- ①学部生加入率 100%、教員・職員加入率 85%⁶を達成し、生協の基礎組織をより強化します。
- ②共済加入率80%⁷を達成し、助け合いと、健康で安全な学生生活を支えるための活動を強化します。
- ③学生委員会組織は3キャンパス合わせて 100 名体制を確立します。学生委員会活動を中心に協同の輪を広げ、多くの学生の参加で大学づくり、生協づくりをすすめます。
- ④中期計画の執行と大学執行部との協力関係強化を図るための理事会体制・運営をつくりまします。
- ⑤各キャンパスの運営委員会を総代会議として充実を図ります。日常的な「組合員の声カード」活動をと合わせて、より多くの組合員の声と参加で生協店舗を改善していけるようにします。

（2）「組合員の協同を育む」活動に関する計画

- ①助け合いの共済事業と、健康で安全な学生生活を支えるための活動を強化します。
 - ・学生総合共済の良さを知らせ、共済加入学部生 80%を達成します。
 - ・給付の日常的な呼びかけと申請しやすい環境を大切に、給付漏れをなくす取り組みを推進します。
 - ・学生委員会と本部が協力して、健康・安全・食をテーマとした活動を一層発展させます。
- ②新学期アドバイザー組織を構築します。学生委員会が組織する新学期プロジェクトと協力し、新入生の学びと生活のスタートを組合員の参加でき支える活動・事業を展開します。
- ③環境問題、ユニセフ、平和の問題について「知り、知らせ、考え、話し合う」活動を展開します。

（3）「食」分野に関する計画

- ①「食堂パス（定期券型ミールプラン）」⁸を導入し、組合員の毎日の食生活を支える新たな仕組みをつくりまします。＝新規事業
- ②食菜とパッキアのホール・カウンター改装を実現し、より居心地のよい利用しやすい食堂をつくりまします。＝施設投資計画
- ③食堂の利用者数・供給高を 2014 年比で 20%伸長させまします。＝利用・供給高目標
- ④食堂3店舗合わせ、事業剰余±0での運営⁹を実現まします。＝経営目標
- ⑤健康な生活と生活主体者としての成長を支援する活動として、大学・行政と協力し食育事業を展開まします。＝価値創造

⁵ 中期計画の期間は 2015 年度総代会終了後（2015 年 6 月）から 2019 年度総代会（2019 年 5 月）に設定まします。

⁶ 2015 年新学期時点での生協加入率は学部生 97%、教職員 65%です。

⁷ 2015 年新学期時点での共済加入率は 70%です。

⁸ 「食堂パス」は事前に、半年間または 1 年間の食費をお支払いいただくことで、定期券を利用するように生協食堂で食事ができるシステムです。

⁹ 2014 年度は美浜+半田で▲270 万円の赤字です。

(4) 「勉学・キャリア形成支援」分野に関する計画

- ① 新入生の勉学生活のスタートに一層貢献できるよう、3 カ年計画で新学期事業を再構築します。
- ② 学習用パソコンの利用者数 600 名¹⁰を実現し、講座を中心とした新規事業を立ち上げます。
- ③ キャリア形成支援事業では、新しいキャリアデザイン講座と英語学習講座を新規事業として立ち上げます。
- ④ 読書推進活動¹¹を展開します。「日本福祉大生のためのリーディングリスト（仮称）」を発行し、リストとリンクした推薦本提案、店舗企画を行います。
- ⑤ 上記活動への組合員参加を組織し、組合員どうして学び、交流し合う活動を展開します。

(5) 「販売系」分野に関する計画

- ① 「毎日のように足を運んでいただけるキャンパスコンビニ」をテーマに、店舗基礎力の強化を図ります。
- ② 「菓子・食品」「パン・米飯」「飲料・デザート」「ベーカリー」分類の利用者数・供給高を 2014 年実績の 1.25 倍にします。
- ③ 大学各部署・研究室を訪問しての提案活動力、店舗での対応力を高め、校費・研究費による供給高を 2014 年度実績の 1.5 倍にします。
- ④ 自動車学校、卒業衣装の申込シェアの目標を下記の通り設定します。
- ⑤ ノートパソコンを活用してのアクティブラーニングや電子テキストの活用研究と提案を行います。

(6) 半田キャンパス・東海キャンパスに関する計画

- ① 東海キャンパスの福利厚生、学生支援の充実に貢献できるレストラン、ショップ、組織活動を確立します。
 - ・ 2018 年までにキャンパス供給高を 1 億円とし、損益の黒字化を実現します。
 - ・ 学生委員会、キャンパス運営委員会、キャンパス連絡会議等の組織運営・機関運営を確立します。
 - ・ 地域や行政と連携・共同した東海キャンパス独自の取り組みを行います。
- ② 半田キャンパスの学生、教職員の期待に応える事業を展開し、2018 年までにキャンパス供給高 1 億円を実現します。
 - ・ 「学食パスの導入」と「ホール改修」により、食堂の利用環境を改善し、利用者数・供給高の伸長、損益の改善をすすめます。
 - ・ 教職員の加入と利用を促進するとともに、教科書・教材・校費分野での供給高の伸長を図ります。
 - ・ 学生委員会、キャンパス運営委員会、キャンパス連絡会議等の組織運営・期間運営を確立します。
- ③ 小規模店舗でも、店舗毎に黒字化できるように供給・供給剰余・人件費・物件費を確かめ、事業剰余ができるように計画をします。
- ④ キャンパスマネージャーを配置し、経営管理の標準化と効率化を図ります。
 - ・ キャンパスマネージャーは、購買・書籍・食堂・組織活動・大学との協議を一手に管理し、キャンパスの事業を総合的に前進させる役割を担います。

¹⁰ 2015 年は 510 台の実績です。

¹¹ 第 50 回学生生活実態調査では 55.6%の福祉大生が「1 日あたりの読書時間を 0 時間」と回答しています。

(7) 施設改装・投資に関する計画

- ①美浜キャンパス食堂のホール改修（座席不足の解消）、カウンター改修・厨房機器の更新（メニューの充実や混雑緩和への期待に応える）を行います。
- ②美浜キャンパス12号館2階ラウンジ¹²を組合員どうしの交流スペースとして改修します。
- ③半田キャンパス食堂のホール改修（座席不足の解消）、カウンター改修（メニューの充実や混雑緩和に期待に応える）を行います。
- ④上記①～③を大学と協力し、4ヵ年計画ですすめます。

(8) 経営数値に関する計画

- ①必要な投資を行いながら、2015～2017年の赤字幅を最小限に抑え、2015年に黒字化することを事業経営目標とします。¹³
- ②供給高¹⁴は2018年までに7億8,000万円まで伸長させる計画とします。（14年差伸長率10%）
- ③事業総剰余¹⁵率は24%、事業総剰余は1億8,500万円を計画します。（14年比伸長率7%）
- ④事業経費（人件費＋物件費）は1億8,500万円以内での執行を計画します。
 人件費・・・事業連帯支援終了による正規職員給与増及び東海キャンパス定時職員給与増
 物件費・・・東海キャンパス運営経費増
 共同運営費・・・事業連帯支援終了に伴う増加
- ⑤施設改修を想定し1,500万円を投資予算として計画します。

勘定科目	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2014差
供給高	736,103	675,924	751,097	678,403	750,908	763,606	773,187	780,997	102,594
供給総剰余	159,373	153,105	163,859	141,311	152,607	155,638	158,621	160,600	19,289
事業総剰余	174,784	167,028	180,875	167,056	176,752	179,988	182,996	185,000	17,944
人件費計	97,759	88,190	83,452	87,553	102,107	102,780	103,756	104,612	17,059
物件費	60,674	57,574	59,596	57,281	68,859	66,338	64,135	64,687	7,406
共同運営費	6,700	6,700	8,500	8,500	8,500	15,200	15,200	15,200	6,700
事業経費計	158,433	152,464	151,548	153,334	179,466	184,318	183,091	184,499	31,165
事業剰余	16,351	14,564	29,327	13,722	-2,714	-4,330	-95	501	-13,221
投資計画						2,000	10,000	3,000	
税引前剰余	19,843	17,064	28,705	20,415	901	-1,230	0	1,000	-19,415
当期剰余	19,032	10,238	18,432	14,058	-1,500	-2,450	-4,000	600	-13,458
繰越剰余	-67,296	-51,476	-36,732	-22,674	-24,174	-26,624	-30,624	-30,024	-7,350

(単位千円)

¹² 美浜食堂は10年を経過し、ホール・椅子・テーブルの老朽化が目立ってきました。厨房機器の経年劣化もすすんでいます。また2階ラウンジは生協の管理施設ではありませんが、こちらも椅子・テーブル類の痛みが激しくなっています。外観からのイメージもよいとはいえない雰囲気です。キャンパスアメニティに関する期待と関心が高まる中で、福祉大の福利厚生施設の充実度を広くアピールするためにも、ホールデザイン刷新や椅子・テーブルの入れ替え、厨房・出食カウンターの改修が必要です。

¹³ 第5期中期計画の執行により累積欠損は▲2,267万円まで減少しました。2015年からの3キャンパス運営により、事業

経費が増え投資も発生するため、累積欠損の解消は第7期中期計画の課題とします。

¹⁴ 供給高＝利用高

¹⁵ 事業総剰余＝供給高から仕入高を引き、手数料等の収入を加えたもの。生協の事業収入の金額です。

(9) 経営構造改革に関する計画

①美浜キャンパスの収益・店舗構造の改革を2年計画ですすめます。

- ・組合員一人あたりの利用高10%増を目標(102,000円→112,000円)とし、事業活動を展開します。
- ・「食」と「学び(新学期)」をテーマとした新規事業を展開します。
- ・教職員利用、校費利用20%増を共有目標とし、店舗外活動を強化します。
- ・学生数1,000名減の環境に見合った店舗運営構造を構築します。
- ・付属高校店舗での収益確保に向けた取り組みをすすめます。
- ・学内人口の変化や曜日・時間帯別の利用者数に対応し、営業日・時間の見直しを行います。

②フードサービス事業の黒字化に向けた収益・店舗構造の改革を3ヵ年計画ですすめます。

③半田キャンパス店舗の黒字化に向けた収益・店舗構造の改革を4ヵ年計画ですすめます。

④東海キャンパス店舗は看護学部ができる4年後に黒字化する計画ですすめます。

(10) 大学・行政・さまざまな団体との関係強化に関する計画

①大学との「相互協力協定」に基づき、協力関係を深化させていきます。

- ・「日本福祉大学・生活協同組合の事業推進協議会」「キャンパス連絡会議」を軸に「方針・計画の共有」「福利厚生施設計画の実現」「学生支援のための共同企画の実現」をすすめていきます。

②大学内の自治組織やサークルとの連携を強めます。

③必要とあれば、大学業務のアウトソーシングの受け皿となり、大学業務の効率化に協力します。

④エヌエフユーとの連携を強化し共同事業に取り組みます。

⑤行政や地域、地元企業と協同による取り組みを広げ、地域社会づくりに積極的に参加します。

(11) 生協業務組織・運営に関する計画

①中期計画実現のための事業部と職員体制の再整備を行います。

- ・店舗力強化、組合員サービス強化、新規事業開発を重点とした機能整備を図ります。
- ・経営改善の進捗状況と2015年以降の運営体制を見据えながら、必要な職員体制の整備を行います。

②生協の業務組織・経営の主体にパート職員を位置づけるため、新しい人事制度・評価制度・教育制度を確立します。

- ・福祉大生協の人事ポリシーを定義し、クレド¹⁶として共有します。
- ・パート・アルバイトを含む生協職員の目標管理制度・評価制度を確立し、一人ひとりの努力・成果に報い、能力開発・課題を明らかにできる仕組みをつくります。
- ・職員の自己開発・自己啓発を基本にした能力開発の制度を整備します。
- ・職場内、部門間を超えたコミュニケーションと学び合いができる取り組みを行います。

③私学生協連携¹⁷への参加を通じ、能力・経験・キャリアプラン¹⁸に基づく再配置と人事異動、及び

¹⁶ ラテン語で「志」「信条」を意味し、スタッフが心がける約束を文章化したもの

¹⁷ 安定した運営体制を築くために東海地区の私立大学生協が協力・連携することを確認しています。

¹⁸ 職場異動や職務変更を軸としてスタッフの能力を高め、必要な人材育成と各々の人生設計と結び付けて実現していくための制度

労働環境の改善を図ります。

- ④ 3 キャンパス運営に対応できる総務・経理・組合員サービス（加入・共済）体制を構築します。